

グループ登場

いいものは時間をかけて

デッサングループ「道草」



毎週木・土曜日、夜六時三十分から教育委員会第四研修室で、石

こう像をモデルにデッサンに励んでいるグループがあります。会員は三人で、昨年七月に発足したデッサングループ「道草」です。



大橋一男さん

を勉強中！。なんでも、モデルの石こう像の値段は三十万円で、会員の自費で買ったもの。一人で絵をかいているあなた、これからかきたいと思っ

「市内にも絵をかいている人はけっこういるんですけど、そういう人たちで作っているグループなどがなかったもので……それで、絵の好きな三人が集まって作ったんです」と会員の栗田 宏さん。グループの名前は「多少の道草をしてもいいから、いいものをつくり、時間をかけてかきあげたい」という願いからつけたそうです。

一人がかいていても、自分に甘えて怠けることが多いです。それに、あまりデッサン力がないと思ったから。自分自身、十年後をひそかに期待しているんです。

市良文芸

短歌

わが孫の入学入園近きしに
姿みずして妻は逝きたり
織田 護

俳句

春光や寄せ来る波の波がしら
西山静江
静かな波たちぬ緋鯉に水温む
須戸義夫
春の波静かに舟の底たたく
石田豊夫
春暁や静けき山の家跳釣瓶
西山了空
雪くする小さき波紋や春の川
坪川桐太郎
露の首見つけ静かに春ほぐる
田中昭一
静座して写経す窓辺梅匂ふ
石田豊一

春一番吹き落ち静む明けの波止
桜井裕子
古稀の字ににれる主や福寿草
針貝静男
まぶしげに枯れ草かき分けふきの
とう
東町 渡辺 勤

川柳

試歩の道白衣の肩に励まされ
吉川末吉
滑る道怯えず歩ゆむ白い杖
山岡フミ
二人分配る朝刊肩重く
山崎 甲
一言の注意根に持ち恨まれる
米野光雄
手不足へ母の荷となる知恵遅れ
岡村 清
生甲斐を個展に賭けて勝負する
吉川 彰
服装の変化を親は不安がり
広野仁一
只の人一本たりぬ良さがあり
本間吾朗
白無垢で嫁がせ婚家の色に染み
成田吉子
根比べ惚れた弱味で負けを知り
鶴巻靖男
売れね絵を売約済みにする個展
今井七郎
変人とやられてもいい切れる鎌
大井義雄

レックス

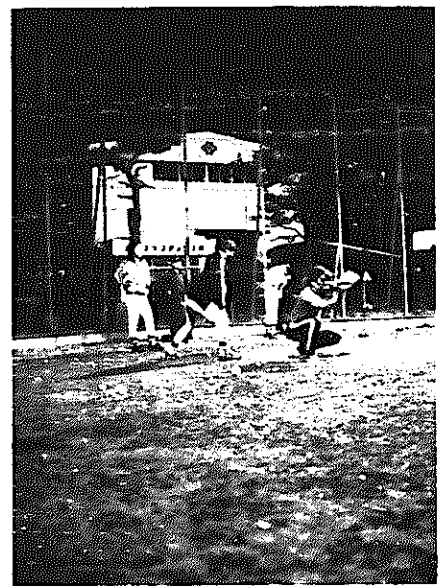
今年も「ナイター」のご利用を

四月一日から白根小グラウンドのナイターが点灯されました。昨年は、二百六十七と多くの団体が利用しました。申し込み、詳しいことは体育係(☎三二七二)へおたずねください



原田泰夫八段を迎え 市民将棋大会

原田泰夫八段を迎え、十六日に市民将棋大会が開かれました。当日は、百人をこす市民が集まり、静かな戦いを展開しました。

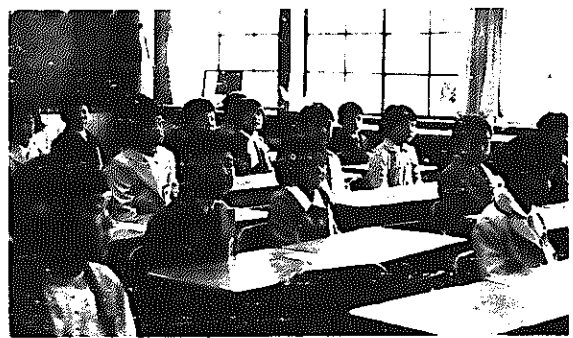


新入生の交通指導

白根小学校で4月7日新入生を対象に交通指導が行われました。これは、通学路で事故がないようにと、横断歩道の渡り方などを指導したものです。

希望に胸ふくらませ—入学式

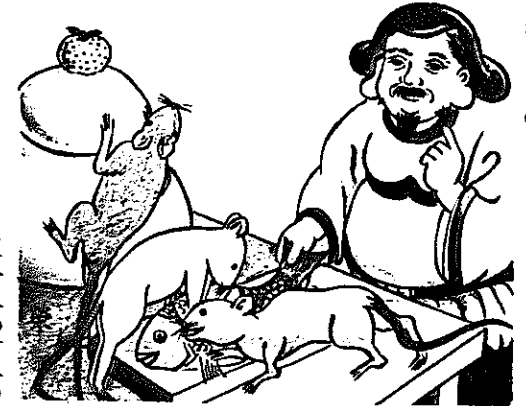
4月6日、市内の各小学校で入学式が行われました。希望に胸ふくらませて今年、446人が新1年生となりました。



あなたもいかが…… おはようサイクリング

朝のすがすがしい空気を胸いっぱい——。お寝坊さんのあなたに！体力づくりをしたい方！おはようサイクリングはいかがでしょう。毎月第1・3の日曜日の朝6時30分から行われています。集合場所は、市役所です。なお、雨の日は中止です。

子持ち大黒

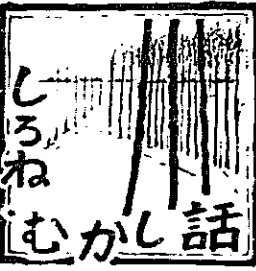


あるところに、ねずみが三匹おりました。一番ねずみは、歯が丈夫で、二番は鼻が達者三番はしっぽが強いねずみでした。ある正月の元日、三匹そろって大黒様のところへ年始に行きました。一番ねずみ 「明けまして、おめでどう存じます」

「それこそ、ほんとに、おめでたいのでございます」そこで大黒様は、みんなでたいを料理して、おしまいになりましたが 「まだ、夕飯に少し早い。ふるにでも入ってこよう」と、打ちそろって、おでかけになりました。三匹のねずみどもは、かわるがわる大黒様のおせなかを流し、湯から上がって、いよいよ夕飯をたべようというところで、にておいたたいがありません。

「お正月、おめでどうございます」 「おついでで、おめでどう」と、お祝いを申し上げました。大黒様は、たいへんお喜びになって 「ドリヤ、何かごちそうをしてあげよう」と、おたちになりました。ちようどその時、えびす様から、たいの御年始が来ていましたので 「これを料理しようか」と、おつしやいますと、ねずみどもは

「かいでこい」と、命じなされますと、二番ねずみは、そのものたいのところから、鼻をグングシとならせ、外の方へゆきましたら、かしの木の上に、大きなのねこが、たいをたべておりました。そこで三番ねずみは、尾を木にまきつけて引っぱる。一番ねずみは、その丈夫な歯で木の根本をかじり、とうとうかしの木をたおし、のらねこを、とつかめ、ひげをぬくやら、はなをつぶすやらして、ころしてしまいました。そこで三匹のものは、それぞれたから物をもらい「ちーさいちたち(元日)、めでたしめでたし」と、あなへもぐりました。



(12) 文…木下牛太郎 絵…伊藤栄一

「それこそ、ほんとに、おめでたいのでございます」そこで大黒様は、みんなでたいを料理して、おしまいになりましたが 「まだ、夕飯に少し早い。ふるにでも入ってこよう」と、打ちそろって、おでかけになりました。三匹のねずみどもは、かわるがわる大黒様のおせなかを流し、湯から上がって、いよいよ夕飯をたべようというところで、にておいたたいがありません。